取　組　名	地震時の避難訓練、緊急引き渡し訓練		
特　　徴	地震の時の避難訓練の後、緊急引き渡し訓練を行い、親子で降園する。		
学　校　名	下関市立豊東幼稚園	期日	平成２６年１０月２１日（火）

１　ねらい

○　地震の時の避難訓練の方法を知り、身を守り安全に避難する意識をもつ。

○　緊急時を想定し、保護者に確実に引き渡す訓練を行う。

２　概　要

○　地震時の避難訓練

・地震について知っていることを話し合ったり、紙芝居を見てその怖さを感じたりしながら、地震が起きた時の避難方法について知らせておく。

・地震の音・避難の放送を、その場に座って聞く。

・揺れている間、机の下に入って待つ。

・揺れが収まったところで帽子をかぶり、外靴をはいて園庭に避難する。

○　緊急時引き渡し訓練

・避難訓練の日を前もって知らせ、緊急時の引き渡し方法を保護者に分かるように知らせておく。

・園児が園庭に避難完了したところで、保護者は、迎えに来た順に名簿に名前と時間を記入し、我が子を迎え、親子で降園する。

引き渡し名簿　　月　　日

No.	園児名	保護者名	時　間	確認印
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				

３　成果と今後に向けて

○　地震や津波については、テレビ等の情報である程度知っている園児も多かった。紙芝居により具体的に話し合うことができた。帽子をかぶり、靴を履いて避難したが、日頃の避難訓練のように落ち着いて避難できた。

○　保護者は来た順に名前を記入することで並び待つことになった。時間が少しかかっても間違いなく確実に引き渡すには、記入する方法が良いと防災アドバイザーから指導を受けていたので、時間を短縮するために、名簿をクラス・男女等分ける等の改善していきたい。

○　災害は、何時、どんな時に起きるかわからない。園児に、火災、地震、台風等様々な災害が起きる場合があることを知らせておくことが大切である。保護者には、災害時の園の緊急時の対応は知らせていたが、実際に訓練して、それぞれが避難の方法等をイメージしておくことの大切さを感じた。

　訓練して、初めてわかることも多く、この反省を生かして、より良い避難の方法を具体的に身に付けていきたい。

取　組　名	サイバーセキュリティー講習会（家庭教育学級）		
特　　徴	児童だけでなく、家庭教育学級として保護者の啓発活動を行った。		
学　校　名	岩国市立由西小学校	期日	平成２６年１１月１３日（木）

１　ねらい

近年、急速に増えているインターネットや携帯電話等に関する被害やトラブルを未然に防ぐため、専門家から具体的な対策を聞くことにより、情報セキュリティーに関する児童、保護者、教職員の意識の高揚を図る。

２　概　要

（１）対　　象　小学５・６年生（８名）、保護者、教職員
（２）実施日時　平成２６年１１月１３日(木)１５：００～１５：４５
（３）実施場所　多目的室
（４）研修内容
　①　サイバー犯罪やインターネット、携帯電話によるトラブルの現状と予防・対策についてＤＶＤを視聴し、指導者の説明を聞いた。
　②　質疑・応答
（５）協力機関　山口県岩国警察署　生活安全班　矢野美和　様

３　成果と今後に向けて

（１）成果
○　スマートフォンによるゲームアプリの安易な購入をきっかけに大変な事態になることを、ＤＶＤの視聴により児童は身近な問題として感じ取り、気を付けなければいけないという気持ちを強くもつことができた。
○　保護者にとってサイバーセキュリティーの問題は、対策の必要性を感じていても具体的にどのような問題が迫ってきているかを知るチャンスは少ないと思われる。このような実態から、本家庭教育学級でＤＶＤを視聴し、その上で講師の説明や岩国署内での事例を聞いたことにより、身近に迫っている問題として危機感をもつことができたと思う。
（２）保護者の感想
○　自分も新しいものがよく分からないので、専門的なことを聴かせていただき、子どもたちにもよく伝わったと思います。ありがとうございました。
○　とても参考になりました。
○　たいへん勉強になりました。
○　講演の内容がよく分かりました。
○　講演の内容が良かったです。
（３）今後の課題
　児童が危険だと認識し、その解決策を保護者が児童とよく話し合い、家族をみんなで被害を未然に防ぐ実践力を身に付けることが課題である。

取　組　名	家庭や地域における不審者対応の学習と学校における不審者対応避難訓練		
特　　徴	学んだことをしっかり定着させるために、不審者対応の学習と避難訓練を分けて実施した。		
学　校　名	下松市立中村小学校	期日	平成２６年７月　３日（木） ９月１１日（木）

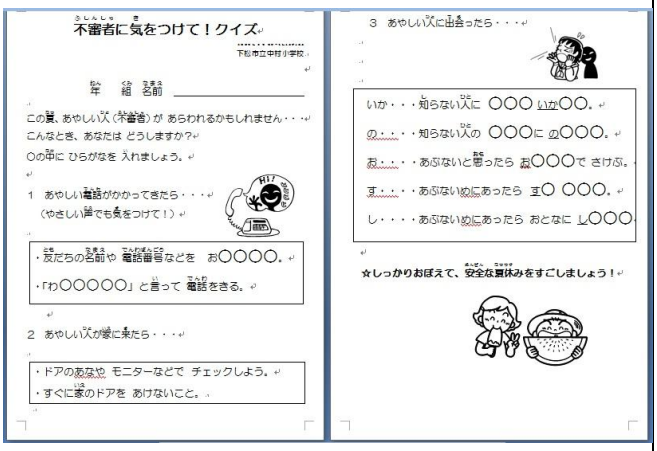
１　ねらい

・家庭や地域で不審者から身を守る方法を知るとともに、安全に対する意識を高める。
・不審者の学校侵入時における基本的行動について確認する。
・警察の指導のもと、避難誘導体制について問題点を把握し、非常時に備える。

２　概　要

（１）不審者対応教室

・体育館で生徒指導主任と教頭による寸劇を見て不審者からの身の守り方を学ぶ。
　①　不審電話への対応
　②　不審者訪問への対応
　③　不審者による声かけへの対応
　　「いかのおすし」
・教室に戻り、クイズで「いかのおすし」等を確認する。


不審者に気をつけて！クイズ

下松市立中村小学校

年　組　名前

この夏、あやしい人（不審者）が あらわれるかもしれません・・・
こんなとき、あなたは どうしますか？
○の中に ひらがなを 入れましょう。

1　あやしい電話がかかってきたら・・・
（やさしい声でも気をつけて！）

・友だちの名前や 電話番号などを　お○○○○。
・「わ○○○○○」と言って 電話をきる。

2　あやしい人が家に来たら・・・

・ドアのあなや モニターなどで チェックしよう。
・すぐに家のドアを あけないこと。

3　あやしい人に出会ったら・・・

いか・・・知らない人に ○○○ いか○○。
の・・・知らない人の ○○○に の○○○。
お・・・あぶないと思ったら お○○○で さけぶ。
す・・・あぶないめにあったら す○ ○○○。
し・・・あぶないめにあったら おとなに し○○○。

☆しっかりおぼえて、安全な夏休みをすごしましょう！

（２）不審者対応避難訓練

昼休み時間、運動場に不審者（少年安全サポーター）が侵入し、発見した児童が、職員室に報告する。

報告を受けて２名の教職員が対応し、校内放送で児童に避難する暗号を伝えるとともに、１１０番通報を行う。

放送を聞いて、全児童が集合場所に避難する。高学年の児童は低学年の児童を誘導しながら避難場所に向かう。

男性職員は刺又を持って不審者対応に加わり、女性職員は集合場所で児童名簿を手に児童の確認を行う。

避難完了後、不審者対応のＤＶＤを視聴し、少年安全サポーターの話を聞いた。

３　成果と今後に向けて

○　クイズによる振り返りは効果的で、児童が「いかのおすし」を正しく覚えることができた。
○　児童の避難態度はよく、迅速に体育館に集合することができた。
○　職員の役割分担が明確で、行動し易かった。
○　男性職員の不審者に対する言葉の圧力が適切だったと少年安全サポーターから伝えられた。
△　訓練の設定がマンネリ化し、放送を聞く前に体育館に来た児童がいた。不審者侵入の時間・場所を変えていくとともに、ブラインド方式の訓練も検討したい。
△　刺又が学校に２本しかなく、今回は公集小学校から借りた。いざというときのために早めの整備を進めたい。

取　組　名	不審者対応避難訓練		
特　　徴	警察との連携により、より現実的な想定の下で実施する。		
学　校　名	光市立三輪小学校	期日	平成２６年５月３０日（金）

１　ねらい

不審者が侵入してきたとき、児童及び教職員が落ち着いて対応できるようにする。

２　概　要

（想定）挙動不審な男が２年の教室に侵入。大声を上げて騒いでいる。

○　２年担任が、教室に入ってきた不審者に気づく。

２年担任：児童を校庭側ドアから中庭へ避難させ、中庭から、隣接の学級担任へ通報。
（叫びながら避難させる場合も）
運動場へ児童を誘導。

隣接学級：児童に教室の真ん中へ行くように指示。教室を施錠。
（状況により、２年生と一緒に避難）
インターホンで職員室へ連絡。
「不審者が２年の教室にいます。すぐ来てください。」

事務　　：校長に連絡。

校長　　：事務職員に１１０番通報を指示。教頭へ緊急放送の指示。

事務　　：公開携帯（警察連絡用）もしくは大和駐在所へ電話。
「三輪小学校です。不審な男が校舎に入っています。すぐ来てください。」
警察の誘導のため県道まで出て待つ。

教頭　　：「緊急放送、緊急放送。**２年の教室に特別なお客様です。**
担任の先生方は児童を教室の後ろへ集め、施錠をお願いします。」

各担任　：児童を教室の後ろへ集合させ、窓を閉め、出入り口を施錠する。

校長、教頭、児童の対応をしていない教職員
：護身用の棒などを持って、現場へ急行し、不審者の対応に当たる。

○　１０分後

事務　　：警察を誘導。

警察　　：不審者を確保。

校長　　：安全を確認し、避難解除を教頭へ指示。

教頭　　：「学校は安全になりました。警戒を解除します。
これから緊急集会を開きます。児童のみなさんは、体育館へ集まりなさい。」

各職員　：担任は学級の児童を連れて体育館へ。事務職員は事務室へもどる。

養護教諭：出席簿を持って体育館へ移動する。

※　具体目標（１）あわてずに、指示を待つことができる。
（２）指示に従って、はやく安全に避難することができる。
「**お**さない」「**は**しらない」「**し**ゃべらない」「**も**どらない」

○　２０分後　全体会

（１）はじめの言葉　（教頭）
（２）外部講師の指導
（３）校長講評
（４）児童代表によるお礼の言葉　（６年生１名）
（５）終わりの言葉　（教頭）

○　事前・事後の指導

①　安全な基本行動について理解させておく。

●　不審者侵入の緊急放送内容について児童に知らせておく。

「緊急放送、緊急放送。昇降口に特別なお客様が侵入しました。
全てのドアと窓のかぎを閉め、避難の準備をして待ちなさい。」

●　先生の指示に従って、はやく安全に避難場所に避難する。

「**お**さない」「**は**しらない」「**し**ゃべらない」「**も**どらない」

②　普段から、放送や教師の指示をよく聴かせるようにしておく。

③　避難の様子を振り返り、防災に対する意識や感想などを日記や作文にまとめさせる。

④　ＫＹＴによる指導を行い、危険予測の力を養う。

３　成果と今後に向けて

（１）成果

県警本部の少年安全サポーターと事前に打ち合わせを行うことにより、児童が恐怖心を感じるなどトラウマを抱くことなく、かつ、適切な緊急時の対処法について訓練をすることができた。

少年安全サポーターが地元警察及び地元派出所と連携をとったので、派出所から警察官が駆けつけるという現実的な訓練を行うことができた。

教職員は、実際に対応することの難しさを痛感したようである。担任として、不審者への対応、児童への指示・安全確保、職員室への連絡と迅速に行動することが求められる。現実に起きた場合、訓練どおり落ち着いて確実に対応できるか危惧される。

全体会で、少年安全サポーターから子どもたちに「い・か・の・お・す・し」について確認をしていただいた。専門の方が話されると説得力があり、子どもたちにも真剣さが見受けられた。

（２）今後に向けて

互いに役割を交代して訓練をすることによって、すべての教職員が落ち着いて対応できるようにしていきたい。

また、ビデオ教材やＫＹＴ教材を活用することで、全職員がさまざまな場面において適切に対応できるようイメージトレーニングを重ねたい。

取　組　名	不審者対応の避難訓練		
特　　徴	大声で助けを求めよう！大声ってどのくらい？（騒音測定器で測ろう）		
学　校　名	宇部市立神原小学校	期日	平成２６年１０月２４日（金）

１　ねらい
（１）不審者が校舎内に侵入した時に落ち着いて行動できるようにする。
（２）担任及び担任以外の指示に従って、速やかに避難できる態度を身に付ける。
（３）不審者侵入時における教職員の役割を明確化し、緊急事態の校内体制を整える。
（４）大きな声が、万が一の時に役立つことから、実際に声を出す練習をする。

２　概　要
（１）不審者侵入に対して、職員が対応する。
（２）校内放送にて、全校に体育館避難の放送をする。
（３）体育館で、警察署員から不審者に遭遇した時の対処方法や留意点を聞く。
（４）全校で大きな声を出してみる。
（５）１・３・５年の代表者の声の大きさを騒音測定器で測定する。

『い・か・の・お・す・し』について

騒音測定器に向かって

３　成果と今後に向けて

６月から月初めの二日間に、運営集会委員会の児童が校門で挨拶運動を行うことを始めた。１０月からは、登校時の見守りを行ってくださっている保護者にも呼び掛け、協力いただいた。

避難訓練実施前に開催した、人権教育の講演会においても、講師から「地域の人にしっかり挨拶をし、不審者か不審者でないか、自分で判断できるようにしよう。」というお話をしていただいた。

本日の避難訓練（不審者対応）の指導者である宇部警察署の生活安全課の係長さんからも、「い・か・の・お・す・し」について、再度御指導をいただいた。その中でも「大きな声で助けを求める。」ことの大切さを強く話された。普段大きな声を出す機会のない子どもたちであるが、騒音測定器に向かって助けを求める大きな声を出すことができた。

大きな声を出すためには、日頃から挨拶等でしっかりと声を出すことが必要であり、そのために、なぜ挨拶をすることが必要なのか、挨拶をすることの大切さを、学校全体や学級の様子に応じて、様々な活動で継続的に指導していきたい。

また、本校の挨拶運動等を学校だよりで地域に発信し、保護者・地域の方へもこの運動を広めていきたい。

取　組　名	安全教育の充実		
特　　徴	専門家、地域と連携した安全教室（防犯教室の取組）		
学　校　名	美祢市立厚保小学校	期日	平成２６年７月４日（金）

１　ねらい

○　登下校中での「子ども１１０番の家」への避難の仕方について理解し、安全に対処できるようにする。
○　不審者と遭遇した時に必要な基本的な避難行動について理解する。
○　日常生活等の中で、保護者の留守中に不審電話がかかった時の対処方法を学び、安全意識の高揚と危機回避能力の向上を図る。

２　概　要

◎　避難訓練の前半

○　昨年度の不審者対応避難訓練の流れ

（１）児童昇降口に不審者（駐在所長）が現れる。
（２）暗号を使った全校放送を流し全校児童に不審者侵入を告知する。級ごとに担任引率の下、避難場所であるパソコン室（内側から鍵がかかる部屋）へ全校児童を避難させる。
（３）避難訓練の講評を聞き、避難訓練終了。

毎年行っている避難訓練であるが、一部の教職員が不審者に遭遇するだけで、子どもたちが実際に不審者の姿を見ることはないため、子どもたちにも緊迫感がない。そこで今年度は、下校時に不審者と遭遇する場面を設定し、実際に不審者を前にした不審者対応演習と通報演習を行った。また地域の「子ども１１０番の家」の方々を招待し、その演習について様々なアドバイスをいただいた。

○　今年度の対応・通報演習の流れ

（１）集団下校中に不審者が現れ、下校班につきまとい、危害を加えようとする。
（２）６年生を中心に距離をとりながら対応し、最後は下校班全員で「子ども１１０番の家」に助けを求める。
（３）状況（５Ｗ１Ｈ）を詳しく説明するとともに、「子ども１１０番の家」の方と協力し、警察通報などを行う。
（４）様子を見ていた他の子どもたちに意見や感想を言わせ、課題を共有させる。
（５）「子ども１１０番の家」の方に意見を聞き、どのような説明が分かりやすいのか、話の内容や通報の留意点について指導を受ける。

◎　避難訓練の後半

後半は、警備会社職員の方に「安全安心教室」を開いていただき、留守番をしている時の不審電話の受け答え方等について学んだ。まずグループごとに分かれ、それぞれのグループで、留守番の時の注意事項について話し合った。そして実際に警備会社職員と電話での演習を通して、一人で留守番をしている時の留意事項（一人でいることを悟られない、質問に正直に答えない等）について、色々な例を通して指導していただいた。実際に演習に参加できたのは、代表の児童数名であったが、それらの児童の受け答えを通して電話の応対について学ぶことができた。

３　成果と今後に向けて

不審者対応避難訓練については、実際に不審者を前にした訓練であったので、いつも以上に避難することへイメージが高まったのではないだろうか。また日頃あまり顔馴染みのない「子ども１１０番の家」の方へ会うことができ、避難の心構えもできたと思う。安全安心教室については、専門家としての立場から、子どもに理解しやすい内容で、劇化やロールプレイの手法を使って実施してくださるので、子どもたちにも理解しやすかった。今後も、様々な手法を取り入れた安全教室を期待したい。

取　組　名	高齢者と一緒に学ぶ交通教室		
特　　徴	山口県警、公民館、城南生きがい教室と連携し、高齢者と全校児童が一緒に学ぶ交通教室を実施する。		
学　校　名	田布施町立城南小学校	期日	平成２６年１０月１５日（水）

１　ねらい

子どもと高齢者は交通事故に遭う場所や時間帯に多くの共通点があることから、山口県警交通企画課と公民館、城南生きがい教室、城南小学校が連携し、児童と高齢者が一緒に交通安全について学ぶ機会とする。

また、山口県警には現在２名の女性白バイ隊員がおられるが、そのうちの１名は城南小学校の卒業生である。身近な先輩である白バイ隊員を講師として迎えることにより、児童のキャリア教育の推進につなげることを目的とした。

２　概　要

学校時間割の２、３校時（10:30～12:00）で交通教室を開催した。前半は、体育館で、

（１）自転車の点検の仕方や乗り方で注意すること
（２）山口県内で実際に起きた事故の概要と原因
（３）高齢者や児童が事故に遭う危険の高い場所や時間帯
（４）交通事故から身を守るために注意すること（あじのひらき）

「あ」･･･歩いているとき　「じ」･･･自転車に乗っているとき　「ひ」･･･左から来る車に注意
「ら」･･･ライトが点く時間帯に注意　「き」･･･（家の）近所で事故の発生率が高い。

以上、４点について指導があった。

その後は運動場に移動し、車の死角を体験したり、ダミー人形による衝突実験を見学したりして、視覚的に事故の怖さや危険性を学んだ。

３　成果と今後に向けて

高齢者と児童が一緒に交通教室に参加できたことは大きな成果であった。それぞれが交通社会のなかでは弱者であるという共通点を認識するとともに、自転車やバイクに乗ったときには加害者にもなり得るという危険性を十分に認識できた。

また、「おまわりさんへの質問コーナー」では、児童から「なぜ白バイ隊員になろうと思ったのですか？」「どんな仕事をしていますか？」などの質問がたくさん寄せられた。嬉しそうに、誇らしげに質問に答える我が校の卒業生である白バイ隊員の姿から、子ども達には生きたキャリア教育になったように感じた。

今後は、今回培った地域連携のネットワークを生かし、様々な分野で地域と学校が連携する行事を実施していきたいと考えている。

取　組　名	危険予測学習（ＫＹＴ）資料を活用した交通安全教育		
特　　徴	グループ学習にワークショップ形式を取り入れた授業		
学　校　名	下松市立久保小学校	期日	平成２６年９月１２日（金）

１　ねらい

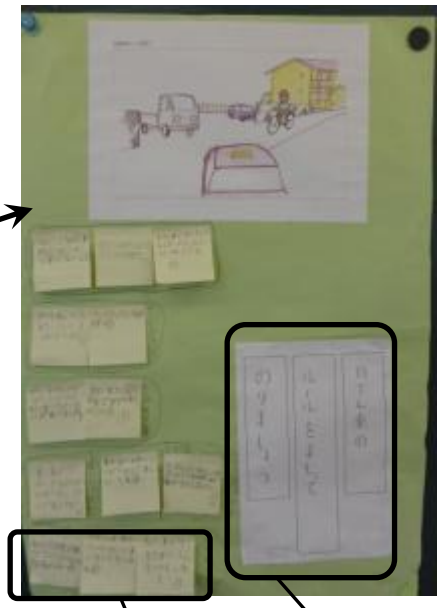
危険予測学習を効果的に実施することにより、児童の危険予測・回避能力をより向上させ、自ら危険に気付き、考え、安全に行動しようとする力を育む。

２　概　要

（授業の流れ）

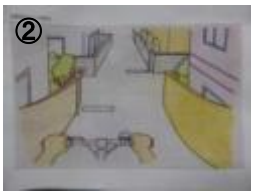
（１）班ごとにＫＹＴ資料を貼った大判用紙を配る。
（２）資料を見て、危険だと思ったことを付箋に書く。
（３）付箋を用紙に貼りながら、グループ分けをする。
（４）グループごとにタイトルをつける。
（５）学習のまとめとして、交通安全標語を作成する。
（６）全体で発表をする。

学習で使用した大判用紙



グループ分けされた付箋

まとめとして作成した交通安全標語



使用したKYT資料

グループ分けをしている児童

標語を考えている児童

３　成果と今後に向けて

児童が学習に大変意欲的に取り組むことができた。

その要因として、ワークショップ形式で行う授業で、付箋に字を書いたり貼ったりすることが楽しかったからと考えられる。さらに、危険と考えられる場所や様子を友達と伝え合ったり同じ考え同士を仲間分けしたりと、グループ活動を友達と協力しながら進めることができたことも要因の一つだと考える。

特に、３年生の児童には難しいと想定していた、仲間分けした付箋にタイトルをつける場面では、互いに知恵を出し合って、上手に決めることができた。タイトルをつける活動をしたことで、グループ全員で危険箇所を整理、再確認できたと考える。今回教室で学んだことを、実際の生活の中で生かせるかが大切だと思う。

今回限りで終わるのではなく、学期に１回もしくは２か月に１回など、計画的、継続的に交通安全教育を進めていき、いざというとき役立つものにしていく必要がある。

取　組　名	南海トラフ地震による津波被害に関する避難訓練		
特　　徴	学校外への全校児童及び周辺幼児との合同避難訓練		
学　校　名	岩国市立川下小学校	期日	平成２６年１１月２６日（水）

１　ねらい

（教職員）　地震発生による非常事態に対して、児童の安全確保のために円滑・迅速な避難経路の判断と誘導の仕方を練習する。

（児　童）　地震発生時に放送や教職員の指示に従い、速やかに行動すると共に、地震発生時の基本行動を知り、避難することを通じて防災・安全意識の高揚を図る。

※　園児・児童の合同避難により幼・保・小の連携体制をつくる。

２　概　要

本校区は、門前川と今津川に挟まれ、河口は瀬戸内海に面した海抜およそ２ｍのデルタ地である。校区の東側には、米軍岩国基地及び岩国錦帯橋空港といった人工的な平地が広がっており、特に山などの遮蔽物は無い。万が一予想を超えた大きな津波が起きた場合、児童の居住地域にもそのまま波が押し寄せる可能性も考えられる。

本校の学校外への避難訓練は、今回で３回目となる。

昨年は、より迅速に避難することに重点を置き、「てんでんこ」の形態を取った（※　一刻を争う状況において、体力があるなど一人でも生き延びる可能性がある者から救うという考え方）。

ただしその場合、当然のことながら、高学年が低学年を次々に追い越して走って行く結果となった。そこで今回は、南海トラフを想定し、津波到達予想が２００分後程度なので、弱い者を守りながら速やかに避難する訓練を実施した。

地震発生から運動場へ集合の後、６年と１年が手をつなぎ出発した。途中保育園、幼稚園の園児と合流しながら今津川をバイパスで横切り、白崎八幡宮の境内へ避難。帰路は、最短距離の大正橋を経て帰校した。

３　成果と今後に向けて

同じ校区の川下中学校は、門前川を挟んだ愛宕小学校児童との合同避難を実施した。

その際、岩盤の強度や、安全な場所への距離などから検討した結果、本校より南西の愛宕山への避難経路が設定された。今後、小中学校のさらなる連携を図り、より安全な経路を検討していかなければならないであろう。

今回は、６年生と１年生、５年生と２年生が手をつなぎ、大きい子が小さい子を守りながら避難した。結果は、全ての避難が完了するのに要した時間は３３分間であった。南海トラフの影響による津波が本校に到達するのが２００分後程度と考えると、十分時間があるといえるが、あくまでもデータであって、決して安心することはできない。

次回は「てんでんこ」での訓練形態を実施し、同時に様々な可能性を検討することで、６年間でどのようにでも対応できる児童を育てていきたい。

１２月中旬には、高学年で映画「ふしぎな石」を鑑賞し映画フォーラムを開催する予定である。実際に震災の被害に遭われ、現在も復興のために様々な活動を行っておられる方の体験を聞くことによって、地震の多い我が国土への理解を深め、さらに深い防災意識を高める手立てとしていきたい。

取　組　名	小中合同避難訓練　―地震・津波対応―		
特　　徴	小中合同で南海トラフ地震に対応した避難訓練を実施し、消防署、警察署、教育委員会、学校関係者（保護者、安全サポーター含む）による連携のもとで児童生徒の安全で速やかな避難をめざした。特に、中学校教員と生徒による小学校低学年の避難を見守る活動を、今回初めて取り入れた。		
学　校　名	岩国市立東小学校	期日	平成２６年１１月１１日（火）

１　ねらい

（教職員）地震・津波に対して児童の安全管理・安全確保や、消防署・警察署・教育委員会・警備会社への通報など、緊急な場面で迅速な対応ができるようにする。

（児　童）放送や教師の指示に従い、速やかに安全な場所に避難することができるようにする。

２　概　要

（１）実施日時　　平成２６年１１月１１日（火）　午後１時３０分から

（２）想　　定　　午後１時３０分に震度６強の地震が発生。
約３時間後に３ｍの津波が襲来する可能性有り。

（３）日　　程　　午後１時１５分　事前指導：地震発生時の対処について学級指導
午後１時３０分　地震効果音（３０秒）→　非常ベル→　停止
→緊急放送

チャイム２回

「訓練放送、訓練放送。ただ今、地震が発生しました。震度６強のたいへん強い地震です。机の下に入り、身を守りながら静かに放送を聞いてください。被害の程度や火災発生を確認しますので、落ち着いてその場で、次の放送があるまで静かに待っていてください。なお、放送が使えなくなった場合は、拡声器で中庭から指示を出します。」（２回繰り返す）

チャイム１回

「避難放送、避難放送。火災の危険はありません。校舎内外の倒壊箇所も少なく、避難に支障はありません。児童の皆さんは、先生の指示に従い、頭を守り足下に注意して、落ち着いて黙って、グラウンドに避難してください。（２回繰り返す）以上。」

グラウンドへ避難（１次避難）→　人員点呼　→ 学年主任　→　校長
２次避難開始（津波対応）
・各学級２列で行動。・なかよし、１年生から避難開始
※　東中学校：職員２名、 生徒６名　１年生誘導補助（一緒に避難）
:生徒５名　総合庁舎階段踊り場での誘導補助
総合庁舎屋上へ避難（２次避難）→　人員点呼　→　学年主任　→　校長

校長先生の話　→　１年生から学校へ帰る。

午後２時３０分　事後指導　→　避難訓練終了

◇　避難訓練中は、警察署員による交通指導、保護者・安全サポーターによる見守りを実施してもらう。消防署員には、避難の様子を見てもらい指導を受ける。

３　成果と今後に向けて

小中合同の避難訓練は、一昨年に引き続いて２回目になる。１回目は、ただ単に小中児童生徒が総合庁舎に避難するだけだったが、今回は中学校職員や生徒による誘導補助（最終的には職員が監督している）や保護者・安全サポーターの見守りなど地域の協力もいただいた。安全な避難を速やかに行うことができ、小学校としてはたいへん助かった。

今後は、自治会などとも協力して行うことができればと思う。また、全員は無理であるが、一部の保護者の協力を得て、児童生徒を学校から保護者へ引き渡すところまで実施できれば、最終的な段階まで想定した避難訓練になると考える。

総合庁舎に向かう東中学校生徒

東小学校グラウンドから総合庁舎に向かう児童

避難を見守る保護者や地域の安全サポーター

総合庁舎階段を上る東小学校児童

屋上で話を聞く児童

低学年と一緒に避難した東中学校教員と生徒

取　組　名	自然災害の際の危険予測について（５年生） 地震が起きた時の行動について（６年生）		
特　　徴	危険予測学習（ＫＹＴ）資料集とＩＣＴ機器（電子黒板やタブレット）を使い、児童一人ひとりに視覚的に災害場面を捉えさせることで学習意欲を高める。		
学　校　名	柳井市立柳井南小学校	期日	平成２６年１１月２５日（火） 平成２６年１１月２７日（木）

１　ねらい

５年生・・・危険予測学習（ＫＹＴ）資料集を活用し、自然災害についての正しい知識をもち危険を予測する力と対応する行動力を身に付ける。

６年生・・・危険予測学習（ＫＹＴ）資料集を活用し、１枚の絵から地震が起きたときにどのような危険が予測されるかを考え、実際の生活に生かしていくスキルを養う。（タブレット端末を活用）

２　概　要

（１）５年生・・・自然災害へどのように対処するかを四つの観点から学習を進めた。
①　想像力をもつ。②　瞬時に判断する。③　予測して行動する。④　自分のこととして考える。特に、地震と土砂災害、そして水害について考え、地震が起きたらどんなことが起きて、どう対応するのかを子ども達は話し合いを通して深く考えることができた。

（２）６年生・・・地震が起きたときの危険について、家庭のリビングと学校の理科室の絵を提示して考える授業。最初に、家庭のリビングの絵をタブレットで児童一人ひとりに送った。児童は書き込みをしながら絵の中に潜む危険を考え、なぜ危険なのかを全体で発表した。次に学校の理科室でも同じように考えさせ、発表し、話し合った。子ども達は、実際に地震が起こることを前提に自分の問題として、一人ひとりが危険にどう対処していけばよいかを真剣に考えていた。どんな状況であれ、まずは自分の命を守ることを最優先に考えて行動することを学習できた。

３　成果と今後に向けて

５・６年生とも災害はどこでも起こりうるということを認識することができた。その上でどのように行動するのか（被災防止・早期対応）を一人ひとりが自分のこととして、また高学年としての役割も含めて考えることができた。合わせて自分の命を守ることを最優先に行動することも学ぶことができた。

今後は、今回の学習で学んだことを実際の訓練を通して生かしていきたいと考えている。また、各家庭においても、災害への対応について話し合う機会をもつよう学年通信や懇談会などで働きかけていき、家庭と学校が協働して児童の防災意識を高めていきたいと思う。

取　組　名	飲用水及びレインコートの備蓄		
特　　徴	島しょ部における大規模災害時断水に対応した飲用水備蓄の工夫 東日本大震災の教訓として教わった災害避難時に役立つ備蓄の工夫		
学　校　名	周防大島町立城山小学校	期日	平成２６年６月以後　常時

１　ねらい

○　大規模災害時の断水を想定して、育友会の理解と協力を得て、学校用飲用水を常備する。
○　雨天時又は寒冷時に役立つ備蓄品として、東北大学災害科学国際研究所からの示唆をもとに、児童用レインコートを常備する。

２　概　要

（１）飲用水備蓄の工夫について

生命の保全と生活に必須であるのにもかかわらず災害時に不足して困るといわれるものの第一は、飲用水である。特に、本校のある周防大島町のような島しょ部では、一端大規模災害に見舞われ、水道管破損などが原因で断水すると、避難後、保護者に引き渡すまでの児童生徒の健康維持に、大変な支障が生じることになる。

そこで、本校では、育友会の理解と協力により、今年度から児童一人当たり１Lの飲用水を常備する工夫を考案し、７月以後実践を始めた。

工夫の要点は、消費期限２年間の飲用水を児童１人当たり１L（５００mLペットボトルで一人２本）を購入して備蓄しておき、毎年その半数を有効に消費し、１年ごとに半数を新しく購入して補填していくことで、消費期限内の飲用水ペットボトルを常に一人に２本常備できるということである。

今年度、保護者及び育友会の理解と協力を求め、毎年夏に行う「草刈り作業」で保護者に配付する飲み物を、５００mLペットボトルの飲用水に変えた。こうすることで、備蓄の飲用水のほぼ半数が有効に消費される。半数になった時点で、次の２年間保存できる飲用水ペットボトルを購入し、常時一人当たり２本合計１Lの飲用水を確保する。「草刈り作業の後に水では物足りない。」という声もあるが、大規模災害時の児童の健康維持のためであることを理解していただき、この工夫を継続していくことにしている。

（２）備蓄レインコートの有用性について

本校の防災教育の実践は、今年度、東北大学災害科学国際研究所の目に留まるところとなり、東北大学と交流が始まり、防災教育研究者に出前授業にも来ていただいた。その際に、東日本大震災における東北の教訓の一つとして教わったのが、レインコートの有用性である。レインコートは、雨よけになるだけでなく、簡易防寒着として、また簡易トイレとして役立つということである。

防寒およびトイレの確保も大規模災害時の懸案である。レインコートは、着込むだけで防寒に役立つ。また、不透明なレインコートであれば、大規模災害時に数が不足し、使いにくくなるトイレの代用として、土に掘った穴の上で用を足す際に、プライバシーが幾分かでも確保でき、特に女性は重宝するという。

そこで本校では、児童一人当たり１枚の安価なレインコートを育友会の予算で６月に購入し、備蓄を始めた。運び出しやすい玄関近くを常備場所としておき、校舎から避難する際の持ち出し品の一つにしている。天候により一次避難場所または二次避難場所で配付することにしている。

▲訓練でレインコート（大袋）を持ち出す６年生

３　成果と今後に向けて

（１）成　果

飲用水の備蓄は、以前からの懸案であった。防災倉庫の中の浄水装置が運用できるまでの間も児童に給水できる体制ができたので、保護者にも快く協力いただいている。備蓄レインコートも東北の教訓として受け入れられ、家庭に準備したという声も聞いている。

飲用水ペットボトルもレインコートも、安価な備蓄品であり、揃えやすい。このような発想や工夫を知らせることで、児童や保護者の防災意識や備えも高まっている。

（２）課　題

備蓄の工夫は継続することが肝要である。また備蓄品は品質の維持と点検が欠かせない。年度が変わり、担当者が変わってもこの実践をしっかり引き継いでいきたい。

取　組　名	気象予報士による防災教育		
特　　徴	気象予報士による授業を通して、気象の観点から自然災害の仕組みや防ぐ方法を学ぶ。		
学　校　名	山陽小野田市立高千帆小学校	期日	平成２６年９月９日（火）

１　ねらい

市の気象予報士から専門的に天気について学ぶことで、天気のしくみに興味をもち、防災意識を実感的に高めることができるようにする。

２　概　要

市の気象予報士を講師として招へいし、５年生理科の単元「台風と気象情報」や「雲と天気の変化」と関連させて、防災のための授業を５年の全学級で実施した。

天気の変化について、天気図や雨量測定器の実物を見ながら興味をもって学ぶことができた。

また、竜巻や雷の発生の仕組み等について、映像も視聴しながら、科学的な説明を受けた。その際、急な大雨や竜巻、落雷など身近な自然現象について、実際にそのような天気の変化に遭遇したときに、どのような危険があり、どのように対処したらよいかを具体的に学ぶことができた。

特に、雲の色など身近な自然現象から次の天気を予想できることを学び、普段の生活でも、自らの判断で次の行動を考えることの大切さを学んだ意義が大きかった。

授業の実施後、以下のような子どもの感想があった。

○　雷は、音が鳴ったらすぐ近くまできているということなので、雷の音を聞いたらすぐに建物に入るようにしたい。また、木の側にいると危ないということや、金属を身に付けていなくても雷が落ちてくるということは意外だった。これから気を付けたい。

○　急な大雨の時は、想像していた以上に早く川が増水することや、浅い水の流れでも体が動けなくなり自分が流されることがわかり、怖くなった。

○　台風ができる仕組みや台風の進路に興味をもったのでインターネットで調べてみたい。また、台風が発生した時は、進路を予想してみたい。

○　今まで、雲を注意して見たことがなかったので、これからは雲の様子を見て、天気を予想してみたい。

３　成果と今後に向けて

（１）成果

○　気象の視点から自然災害が発生する仕組みを知ることで、子どもたちが自然災害を科学的に見る目をもち、対処方法を知ることができた。

○　天気の学習を自然災害と関連させて行うことで、自分たちの生活の中のこととして、切実感をもって学習内容を捉えることができた。自主学習で、台風のことについて家庭で調べてきた児童もいた。

（２）今後について

○　今回は、気象予報士による講義を聞くことが中心であったため、今後は、自然災害について自分たちで調べ、集会等で発表するような主体的な活動につなげていきたい。

○　校区のハザードマップについて、今回学んだ視点から見直し、気象的な観点からの危険箇所の分析を子どもたちが行うこともできるのではないかと考えている。

取　組　名	地域防災対策支援研究プロジェクトによる防災授業		
取組の特徴	専門家による研究成果をもとにした、学校の状況に即した防災授業		
学　校　名	山陽小野田市立埴生小学校	期日	平成２６年１０月２１日（火）

１　ねらい

山口大学の研究成果（宇部市・山陽小野田市における風水害〔洪水災害、高潮災害〕について）を活用した実践授業を実施することにより、児童の防災意識を高める。

２　概　要

（１）自然災害の種類

気象災害の中から、「雨」と「風」を取り上げ、その現象について、実際の観測器具を使って理解を深める。

また、伊勢湾台風、周防灘台風、平成１１年の台風１８号を例に、台風のメカニズムについて、映像を通して知る。

（２）高潮災害のしくみ

高潮のメカニズムについて、気圧による「吹き上げ効果」、強風による「吹き寄せ効果」、地形的要因、潮汐との関係などの説明を専門家から受ける。説明を通して、台風が近づくと危険であり、特に、大潮の満潮時が、最も危険であることを知る。

（３）台風１８号による高潮被害

当時の写真を見て、その被害の大きさや恐ろしさを確認する。写真の中には、埴生地区のものも含まれており、児童は身近なものとして捉えることができた。

（４）古地図を使って

大正１１年、昭和１１年の古地図と現在の地図を使って、自分の家や学校を探し、自分たちが生活している場所の危険な場所や安全な場所を確認する。

（５）防災・減災への意識を高める

防災や減災のために自分ができることを考え、命を守るための正しい判断や行動について意識を高める。

雨量計で実験

風力計で実験

地図上で自分の家を探す

３　成果と今後に向けて

理科学習との関連から、５年生を対象に実施したが、本物の観測器具に接し、児童は気象現象について高い関心をもったものと考えられる。気象現象のメカニズムについては少し難しいところはあったであろうが、その恐ろしさについては十分に理解できたものと考えられる。

埴生地区における被害が教材として取り上げられていたことから、児童にとっては、防災や減災を身近な自分たちの問題として捉えることができた。今後は、過去の被害を教訓としていけるように、実践をつなげていくことが大切となる。

取　組　名	竜巻対応の避難訓練		
特　　徴	・これまで想定していなかった「竜巻対応の避難訓練」を実施した。 ・隣接する保育園と情報を共有し、対応を協議した。		
学　校　名	萩市立多磨小学校	期日	平成２６年６月１０日（火）

１　ねらい

○　竜巻注意情報が発表され、田万川地域に竜巻発生の兆しがある場合に、校内放送を聞き、教室まで整然と避難ができるかどうか検証する。
○　竜巻通過の場合に、自分の身を守るための基本的な行動ができるかどうか検証する。
○　避難指示・誘導、安全確保、通報等、教職員の災害対応能力を高める。

２　概　要

（１）指導のポイント（●・・・事前　　☆・・・教職員の対応）

●　竜巻やその発生メカニズム、基本的な対応方法について知らせておく。
（「竜巻から身を守る」気象庁リーフレット等の活用）

●　児童の避難行動を確認する。
・放送を黙って最後までよく聞く。
・指示に従い、黙って、迅速に避難する。お：押さない　は：走らない　し：しゃべらない　も：もどらない

○　身を守るための行動「窓に鍵をかけカーテンを閉める」「窓から離れる」「机の下に潜る」「身を小さくし、引き出し等で頭を守る」を素早く行うこと。

☆　教職員は、この訓練が適切な指示訓練及び誘導訓練であるという意識をもつ。
・指示の徹底　→　普段から
①　指示の途中に口を挟ませない
②　落ち着いて　静かな口調
③　簡潔　言い直さない

☆　迅速な避難誘導　（トイレ前スペース　下学年優先）
☆　確実な安全確保　（掃除道具ロッカー等によるバリケード設営）
☆　適切な連絡・通報（保育園、中学校、教育委員会）

（２）訓練の流れ

時刻	事　　項	活動（指導）の要領	担当
13：20	１　竜巻注意情報発表	・教頭等は、気象情報及び周囲の空の状況を確認。 ・校長：教室への避難指示	教頭 校長 放送 →養護
	「訓練・訓練。児童のみなさんと先生方に、現在の気象状況を連絡します。先ほど竜巻注意情報が発表されました。落雷や竜巻等突風の危険性が高まっています。直ちに教室に避難してください。先生方は避難状況を職員室に報告ください。」（２回繰り返し）」		
	○確認連絡	・田万川保育園・中学校へ避難開始を電話。 ・「おはしも」の様子を確認。 ・インターホン、又は直接職員室へ報告。 全員避難、または○○さんがいない等。 →　教頭：校舎外　事務：校舎内	事務 各担任
13：27	２　竜巻発生	効果音（ブリキバケツに空きビン・缶を入れかき回す）	養護 養護
	◇放送による安全確保行動指示 「訓練。緊急連絡。ただ今、学校周辺で竜巻が発生しました。窓に鍵をかけカーテンを閉め、窓から離れてください。」		

	◇　担任の安全確保行動指示 「ガラスなどから頭や顔を守るため、引き出しの中身を机の上に出し、空のまま手にもって、１階トイレ前に移動します。」 「指示が聞こえないことがあるので、黙ってします。」 「体育座りをし、引き出しで頭と顔を覆いましょう。」 		各担任
13：35	３　竜巻通過後 ◇　放送による安全確認指示 「現在の気象状況を連絡します。竜巻は去り、状態は安定しました。先生方は児童のけがや教室の被害などを確認して、音楽室へ移動してください。」　（移動なしで職員室に報告の場合もあり）		養護
	・報告	◇　教育委員会へ児童生徒・教職員の状況等 （今回は省略）	教頭
13：40	４　事後指導 ・スクールガード・リーダーによる講評	・吉田さんの講評 ・積乱雲による災害・事故防止	進行 教頭
	・大雨、雷、竜巻時の行動について	ＤＶＤ視聴 気象庁製作 発達した積乱雲による災害事故防止啓発映像 DVD 「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」	
	・校長指導講評		校長
14：05	５　各教室へ移動 振り返り		各担任

３　成果と今後に向けて

（１）訓練設定

児童・教職員ともに、竜巻という設定は初めてで戸惑いもあったが、その分緊張感のある活動ができた。児童の自主的な行動を期待して、昼休み終了前に開始した。

（２）避難方法・場所

竜巻の場合、ガラス片や飛散物から身を守るため、教室中央の机下等に避難することが多いが、本校は校舎の構造上屋外に面していない３か所の１階トイレ前スペースに引き出しを持って避難した。避難方法、場所がこれでよいのか、なぜそうなのかといったことについて、児童・教職員が具体的な場面を通して考えることができた。安全確保、経路、広さ等、実際の避難行動を通して適した場所であることが確認できた。

（３）その他

竜巻発生時の効果音が、雰囲気づくりに役立った。また、気象庁製作のＤＶＤは、分かりやすく、よいまとめになった。

取　組　名	地震・津波を想定した避難訓練		
特　　徴	地域・保護者・スクールガード・リーダー・警察署と連携した取組		
学　校　名	長門市立通小学校	期日	平成２６年１１月１８日（火）

１　ねらい

登校途中、通沖の日本海で地震が発生し、津波警報が発表されたことを想定し、状況に応じて他の人のことも考えながら主体的に判断・行動し、自分の命を守る力を習得、防災意識の高揚を図ることを目的とする。

２　概　要

（１）実施場所
　・長門市通　児童通学路
（２）避難場所
　・通小学校体育館
（３）参加者
　・長門市立通小学校（児童・教職員）
　・長門市立通保育園（園児・教職員）
　・保護者・地域の方（２２名）
（４）訓練の概要
　○　避難指示広報（パトカーマイク・出張所放送・防災無線）
　○　避難指示を聞いたら、児童は最短で安全に学校に行ける経路を考え、急いで学校まで避難する。
　○　他の人のことも考えて行動できるようにする。
　○　通保育園前で園児が合流するので、一緒に避難する。
　○　教職員は、途中交通指導をする。
　○　体育館玄関で児童・園児・地域の方の受け入れをする。
（５）避難集会
　○　校長先生の話
　○　「津波に備える」「津波からにげる」の中のクイズのＤＶＤを視聴
　○　通派出所長の話
　○　スクールガード・リーダーの話
　○　校長先生の話

（６）事前指導
　○　どの経路をとると、より安全に早く避難することができるか考える。
　○　訓練の確認、約束をする(避難場所、態度など)。
（７）事後指導
　○　危険を予測し回避することができたか。また、落ち着いて避難することができたかなどを反省・評価し、改善する。
　○　問題点や、不測の事態について話し合い、安全に対する意識を高める。
　○　家庭でも、避難経路・避難した後のことなどについて話すなど、啓発を行う。

３　成果と今後に向けて

今年度は、通保育園と合同で避難訓練を行い、地域の方も参加され合計７７名という人数で訓練をすることができた。事前に地域の方に、回覧文書で避難訓練のことを周知したり、学校行事に協力していただく団体にも案内を出したりしている。通地区は、海に囲まれた地域であるため、津波に対する関心が高いように思える。

これからも、家庭・地域に様々な方法で情報を発信していきたい。児童に関しては、中の道を避難すると、地震で家が崩れたり、通行が困難だったりすることも考え、海岸通りを避難経路にすることについて考えさせる必要がある。今年度は、園児と一緒に避難することで、相手のことも考えて行動をすることができたが、お年寄りや友だちのことも考えて行動がとれるようにしていきたい。

今回の避難訓練を通して危機対応に関する意識は高まったが、これからも、様々な場面を想定し、「危険予測学習」や「危機対応演習資料」も活用しながら、児童・教職員がともに対応の仕方について考える機会を多くもっていけるようにしたい。

取　組　名	校区内安全マップ作り		
特　　徴	３・４年生でグループに分かれ、校区内の危険箇所などを調べ、大きな安全マップにまとめ、全校児童・保護者・地域の方の前で発表する。地域の方や保護者の参加協力による、フィールドワークの実施。		
学　校　名	周南市立高水小学校	期日	平成２６年６月１９日（木）

１　ねらい

３年生と４年生で校区内の安全マップを作成し、全校児童の前で発表することを通して、登下校や地域で遊ぶ際の安全についての意識を高める。

２　概　要

（１）フィールドワーク（５月２８日）

５つのグループに分かれ、通学路やよく遊ぶ場所など、校区内を手分けして歩き、危険箇所などを探して写真に撮ったり、地図に書き込んだりしていった。路地や小さな公園など「入りやすいけど見えにくい」を合言葉に危険かどうかを確かめた。高水地区校外育成協議会の方をはじめとする地域の方々や保護者にも引率のお手伝いをしていただいた。また、「子ども１１０番の家」の方には、インタビューに御協力いただいた。

（２）安全マップ作成

グループごとに担当地区の大きな地図を作成し、そこに自分たちが調べた危険箇所などを書き込んでいった。グループで話し合いながら、見る人が分かりやすいように、写真を貼ったり文章や絵を描いたりと、いろいろな工夫をしながら時間をかけて安全マップを完成させた。安全マップ完成後は、発表会に向けて役割分担や原稿の作成、リハーサルなどを行った。

（３）発表会（６月１９日）

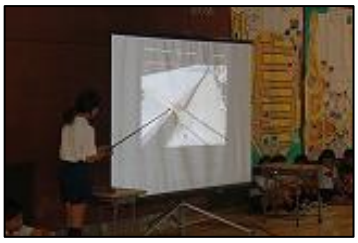
全校児童が集まった体育館の壁に貼られた５枚の大きな安全マップを前に、グループごとに校区内の危険箇所について発表した。特に安全マップにつけた写真については、危険個所として大きくスクリーンに映しながら詳しく説明を加えていった。保護者やフィールドワークでお世話になった地域の方々にも参加していただいた。発表会後は、児童が安全について常に意識できるよう校舎内に掲示してある。

３　成果と課題

道路に書かれている「止まれ」の表示等が消えかけていることや、溝蓋がはずれていることに気付くことができるなど、普段だと何気なく過ごしてしまいがちな危険箇所についても、改めて認知することができた。

地域の方や保護者の方とのフィールドワークを通して、車を運転をする人や地域の方の目線から、その場その場で危険箇所についての気付きを話してもらうことができた。また、「子ども１１０番の家」に立ち寄って直接インタビューすることにより、地域の方から見た小学生の通行の様子についても聞くことができた。

３・４年合同で行うことで、４年生が学び方を３年生に伝えることができ、子ども主体でこの取組を引き継ぎながら、危険や安全を見極める素地を養うことができるのではないかと考えている。



取　組　名	不審者対応防犯訓練		
特　　徴	・３人の指導者（長門市スクールガード・リーダー、少年安全サポーター、俵山駐在所所長）による不審者対応防犯訓練の実施 通報連絡、避難誘導、避難行動、生徒の安全確保 ・登下校中の不審者対応訓練 不審者への対応、通報		
学　校　名	長門市立俵山中学校	期日	平成２６年７月３日（木）

１　ねらい

（１）中学校に凶器を持った不審者が侵入した場合を想定し、その対応と緊急避難の訓練を行い、緊急時に的確に判断し行動できる能力や態度を養う。

（２）登下校時に、不審な人物から声をかけられた場合の対処の仕方を、演習を通して身に付ける。

２　概　要

（１）対象者（小中合同不審者対応防犯訓練）

小学生３５人、小学校教職員１１人、中学生２２人、中学校教職員１３人

（２）指導者

①　長門市スクールガード・リーダー　１人

②　少年安全サポーター　１人

③　俵山駐在所所長　１人

（３）訓練の流れ

①　不審者侵入

②　不審者への対応

・事務職員が教頭へ来校者があることを伝える。「不審な人物が来校しています。」

・教頭が不審者に校長室で対応することを伝え、校長を呼ぶ。「話を聞きます。落ち着いてください。校長室で話を聞きます。」

・校長は不審者と対応する。

③　通報（事務）

・俵山駐在所へ「訓練通報です。長門市立俵山中学校の〇〇です。ただ今、本校の校舎に不審者が来ています。特徴は（　　）代の男性、服装は（　　）で、（　　）です。（　　）をもっています。至急、警察官の出動をお願いします。

・市教委、公民館、幼児園、里山ステーションへ連絡する。

④　避難通報

・避難放送（教頭）「訓練緊急放送、訓練緊急放送、緊急集会を行います。全員コンピュータ室に集合してください。」（２回繰り返す）

⑤　避難開始（担任）

・コンピュータ室へ避難し、人数を確認後、施錠しバリケードをつくる。

・集合状況を校内電話により職員室へ報告する。

⑥　生徒の安全確保

・刺股をもって階段で防御する（体育主任、男性教員）。

・生徒を安全な状態に保つ（各担任）。

⑦　警察官到着、解決

・避難終了放送（教頭）「大事な用事はすみました。お話をしますので、小学校体育館へ集合してください。」

⑧　訓練終了報告

・市教委、公民館、小学校、幼児園、里山ステーションへ連絡。

⑨　指導講話

・指導者３人から、それぞれ講評をいただく。

・長門市スクールガード・リーダーによる登下校時の不審者対応の演習（代表として３年女子１名が演習を行う。）

・スクールガード・リーダーによる演習の振り返り。

３　成果と今後に向けて

今回は長門市スクールガード・リーダーの方に、不審者役をしていただいた。

事前に訓練の流れをお伝えしたが、「シナリオどおりの訓練をしても実践では役に立ちません。予想外の行動をとるかもしれませんよ。」と言われ、当日は、事前の計画とは違う場所から侵入し、そのまま２階の教室へと移動された。そのため、２年生と３年生、特別支援学級生徒は、予定していたパソコンルームに避難できず教室でバリケードを作ったり、理科室の準備室で待機したりして対応した。

それぞれ、授業を行っていた先生が柔軟に対応し、生徒の安全確保を図ることができたと思う。

しかし、最初の発見者や通報者が変わり、報告や通報がスムーズにいかなかったり、刺股を持った職員の到着が遅れたりもした。事後の指導で、不審者対策として緊急の場合、消火器など、さまざまな物を利用して不審者を子どもに近づけないことが第一であると指摘していただいた。また、校長室や事務室で、不審者と立ったまま対応したことに対しては、不審者を深く座れるソファーに座らせる等、話を聞くときも配慮が必要であることを指導していただいた。

登下校中の不審者からの声掛けに対する演習では、落ち着いて対応する生徒代表の行動に対して、お褒めの言葉をいただいたが、もう少し不審者との距離を保つことについて指導をいただいた。

予定と違う不審者の行動は、シナリオどおりに進む訓練に慣れていた教職員や生徒にとって戸惑うものであったが、これまでの訓練では見えなかった様々な問題点を示してくれたと思う。今後も、このような訓練が望ましいと考える。

取組名	交通安全教室（自転車の正しい乗り方）		
特　徴	高校進学後の交通安全のため、中学３年生を対象としている。		
学校名	宇部市立西岐波中学校	期日	平成２６年１０月１０日(金)

１　ねらい

高校進学後は、多くの生徒が登下校で自転車を使用する。そのため、進学前から正しい自転車の乗り方や交通ルールを意識させ、安全な登下校を実践できるようにする。また、生涯にわたって交通安全を意識し、実践できる力を培う。

２　概　要

交通安全についての講義を受けた後、３年生全員が歩道や路側帯での自転車の乗り方を実習した。また、交差点内での留意点についても実技を行った。全員が合格できるまで、何度も繰り返し実技を行った。

←交通標識についての説明を受ける。

自転車の乗り方の確認を受ける。　→

←　実技①

（交差点内での通行についての実技）

実技②　→

（歩行者とすれ違う場合の実技）

最後に、今後の自転車の乗り方についてのまとめを行った。また、交通指導員から、反射材をいただき、安全な装備についても考える機会となった。

３　成果と今後に向けて

生徒にとって、自転車が車両であるという認識は薄く、歩行者と同じ立場と思って通行している場合が多い。そのため、実技では失敗や違反を繰り返す生徒が多くいた。ふざけてやるという失敗ではなく、交通ルールを把握していないために起こるものだった。何が失敗だったのか、どうすればよいのかなどをアドバイスしていただき、安全な通行方法を知ることができた。自転車の通行に関する具体的な生徒の失敗例は、以下のとおりである。

・歩道内では車道側を通行する。
・路側帯を通行する場合、左車線では乗車してもよい。しかし、右側の場合は、自転車を降りて、押して通行しないといけない。
・歩道内では歩行者が優先で、自転車は安全に歩行者を避けるか、降車し避ける。
・交差点内や一旦停止の標識がある場所では、一旦停止すること。
・乗車時、前方後方の確認をすること。

このようなことを、再確認できたり、初めて知ることができたりしたことは、成果として上げられると思う。

３年生の交通事故は、安全教室の効果もあり、２学期以降発生していない。しかし、１・２年生では２学期も数件交通事故が発生している。内容としては、身長と自転車のバランスが悪く転倒したり、並進していてバランスを崩したりといった軽微なものから、右折してきた車に気づかず車と衝突するといった重大なものもある。１年生には「自転車の操作の仕方や体にあった自転車選び」、２年生には「周囲の状況を把握し、安全に配慮した通行」など、成長段階に応じた交通教室を実施していくことが大切であると感じている。

取　組　名	屋上への二次避難を取り入れた避難訓練（震災対応）		
特　　徴	雨天時の避難を想定して、ブルーシートで雨を防ぐとともに防寒する。		
学　校　名	岩国市立通津中学校	期日	平成２６年５月２２日（木）

１　ねらい

・地震発生時の基本行動を理解し、それに適切に実行する。
・発生の知らせを聞き、安全に避難する。
・避難の隊形、人員の把握、報告の仕方などを理解する。
・津波による危険回避のため、安全に二次避難する。

効果音で緊張ぎみに

２　概　要

（１）想　定
　授業中に規模の大きな地震が発生し、校舎外へ避難するが、津波襲来の危険性があるため、校舎屋上へ二次避難する。

（２）実施手順
・事前指導　　１４：３０～１４：４０
　避難訓練の意義、放送指示の理解、避難方法の確認
・地震発生の放送　１４：４２
　地震の効果音
・避難指示の放送　１４：４５
・グラウンドへ避難
　集合整列、人数の確認・報告
・屋上へ二次避難
　雨天時の避難を想定し、ブルーシートで雨を防ぎ、かつ防寒する
・指導講評　　～１５：２０
　津波の高さと被害予想について
　防災教育テキストの活用

まずはグランウンドへ

３　成果と今後に向けて

　雨を防ぎ、かつ防寒するための具体的対応策を経験させるとともに、屋上から校区全体の地形を確認させ、被災時の被害状況の予測と避難経路を把握させることによって、防災に関する危機管理能力を高めることができた。
　今後は、地震、火災等の複合災害に対する避難訓練や高台への二次避難行動の小中合同実施等、より総合的な避難訓練を実施したい。

避難場所を知っている人は手を挙げて

みんなでブルーシートの下に潜り込み、雨風を防ぎます。

取　組　名	「災害の教訓に学ぶ」　―　合同の道徳を通して　―		
特　　徴	全校生徒を対象に行う合同の道徳の授業で、過去起こった災害から得られる教訓について考える。		
学　校　名	柳井市立大畠中学校	期日	平成２６年３月２０日（木）

１　ねらい

東日本大震災の教訓から、自然災害から身を守る方法と、３年経過した現在の状況を踏まえて被災者へ自分ができる支援、これから被災者と「共に生きる」ことの意義について考えさせる。

２　概　要

全校生徒を対象に、「災害の教訓に学ぶ」合同道徳を行う。
内容は【第１部　震災の教訓に学ぶ】【第２部　今私ができること】の２部構成。

【第１部　震災の教訓に学ぶ】
①　映像やスライド、資料をもとに震災の状況を振り返る。
②　これまで学習した、生き残るための３原則を確認する。
③　災害から命を守るためにどのような備えが必要か考える。
④　家族と災害について考える上で、話し合うポイントを知る。

【第２部　今私ができること】
①　現在の復興状況から自分ができる支援を考える（個人発表）。
②　新聞記事などで、支援している人の様子を知る（班活動―縦割り班）。
③　当たり前の生活を送っている自分がどういう生き方をしたらよいかを考える（班活動）。
④　学習の振り返りをする（ワークシート）。

３　成果と今後に向けて

災害が起こった時にどう身を守り、日頃からどのような備えをしておくとよいかを生徒は理解することができた。また、平和な暮らしがどんなに恵まれていることかを知り、改めて生きていることに感謝の気持ちをもつとともに、被災者に対し、今の自分ができることを真摯に考えることができた。

東日本大震災の教訓が風化しないよう、小学校や家庭・地域と連携しながら、より実践的な防災学習を今後も進めていきたい。そして、こうした学習を通して「共に生きる」自覚をもち、積極的に周りに働きかけられる生徒を育んでいきたい。

取　組　名	地震・津波対応避難訓練		
特　　徴	気象庁による「津波防災の日」緊急地震速報訓練に合わせ、校外の第２次避難場所まで避難する地震・津波対応避難訓練を実施した。		
学　校　名	平生町立平生中学校	期日	平成２６年１１月５日（水）

１　ねらい

○　防災に対する理解を深め、身体や生命の安全を確保し、緊急時に対応できる能力を養う。
○　避難時における基本的動作と安全行動「迅速・無言」について、理解・実践させる。
○　非常時における職員の避難誘導体制の確認を行う。
○　津波を想定し、高台（農道・教蓮寺）への避難訓練も併せて実施する。

２　概　要

（１）日　　時　平成２６年１１月５日（水）　２・３校時　９：４０～１１：３０
（２）参 加 者　平生町立平生中学校　　生徒３０５名　教職員２３名
（３）災害想定

１０：００に大きな地震が発生したため、避難を開始した。さらに大津波警報が発令されたため、第２次避難場所の高台（農道・教蓮寺前）へ避難した。

（４）日　　程

９：４０　【各教室において説明】

担任が、目的・方法・避難経路・注意事項（押さない、校内は走らない、しゃべらない）を具体的に説明。事前に振り返りシートを配付。

１０：００　【地震発生】緊急放送（教務）「今から、地震・津波防災訓練を始めます。」

①　緊急地震速報の音声「訓練。チャイム音。緊急地震速報の訓練です。地震です。落ち着いて身を守ってください。」（繰り返し）
→　机の下にもぐり身を守る行動をとらせる。

②　地震の音声（約十秒）「地震がありました。揺れが強かった沿岸部では、念のため津波に注意してください。」

１０：０２　【避　　難】

ア　廊下に並ぶように指示する。番号順２列に並ばせ、人数確認の後、避難開始。
イ　カーテンを開き、窓は閉める。出入口は開けたままにする。
ウ　担任が誘導し、階段に近いクラスから避難。校舎内では走らない。下履きに履き替えて避難する（教員は状況に応じて）。
「押さない　走らない　しゃべらない」

③　津波警報発令の音声（廊下へ並んでいる最中に発令される。止まって聞く必要なし。）「訓練。大津波警報が出ました。今すぐ逃げてください。東日本大震災を思い出してください。命を守るために一刻も早く逃げてください。今すぐ可能な限り高いところに逃げること。近くに高台がなければ高いビルの上か海岸から遠く離れたところへ逃げること。決して立ち止まったり引き返したりしないこと。周りの人にも避難を呼びかけながら逃げること。命を守るために一刻も早く逃げてください。」

エ　校門外駐車場で学級ごとに一旦整列し、学級委員が点呼を取る。
オ　学級委員→担任→学年主任→教頭→校長の順で報告する。
◎報告例
「〇年〇組男子（女子）〇名、全員異常ありません。」
「〇年〇組男子（女子）〇〇さん欠席、他異常ありません。」
カ　そろった学年から駆け足で第２次避難場所へ避難する（道に広がらないこと。）。
キ　教蓮寺駐車場で全校集会の隊形に集合（各クラス男女各２列）、最終点呼。
　校長まで報告終了後、計時ストップ。［計時：教頭］

１０：２０　【全体指導】　講評　校長、全体指導後１年生から歩いて帰校する。
１０：３０　【帰　　校】　学校到着後１０分休憩。
１０：５０　【ＤＶＤ視聴】「津波からにげる」のＤＶＤ視聴
１１：２０　【振り返り】　各教室で振り返りを行う。振り返りシートの記入。

３　成果と今後に向けて

○　緊急地震速報を利用することで危機感が高まり、迅速かつ無言で行動することができた。
○　全校でＤＶＤを視聴したことにより津波に備える意識が高まった。ＤＶＤの内容も避難の際に必要なことが適切にまとめられていた。ＤＶＤは事前に見せる方がよい。
○　事前に地震発生時の注意事項を予想させることで、生徒が主体的に訓練に取り組むことができた。
○　１１月上旬は天候的に最適である。
●　避難経路の把握の徹底を図る。
●　授業者が避難させることを想定した訓練が必要である。
●　特別支援学級の生徒への避難時の配慮が必要である。
●　下足箱付近での安全確保に課題がある。
●　３階からの避難クラスが、下の階の避難を階段で待つ状況が発生した。
●　校外に出たら駆け足をすることを徹底する。

取　組　名	徳山工業高等専門学校と連携した防災訓練		
特　　徴	高等専門学校の専門的知識とＩＴを活用したハザードマップの作成		
学　校　名	下松市立久保中学校	期日	平成２６年８月２６日（火）

１　ねらい

（１）　土砂災害や水害が起きる仕組みを理解し、学校周辺にある身近な危険箇所を把握する。

（２）　土砂災害や水害の被害を最小限にとどめ、災害に強い地域をつくるため、行政や地域の人たちが協力している様子を理解する。

（３）　久保中学校から避難場所までの移動経路を調査し、危険性の有無や危険から逃れる方法について学習する。

（４）　自分たちで取材した「身近な危険」に関する情報をもとに、避難場所まで安全に避難するための工夫を凝らした「防災マップ」を作成する。

（５）　「防災マップ」を使用した避難訓練を実施し、集団で、迅速かつ安全に、目的地まで避難することを実践し、災害時の行動のために、普段から準備することの大切さを学ぶ。

２　概　要

（１）　徳山工業高等専門学校や山口県周南土木建築事務所の専門家などから、土砂崩れや河川の危険性についての講義を受ける。

（２）　講義終了後、災害時の二次避難場所である恋路スポーツセンターまで、３コースに分かれて移動する。

（３）　移動の途中で、専門家の指導を受けながら、危険箇所をＧＰＳカメラで撮影したり、班ごとにタブレット端末を持ち、危険箇所の動画撮影をしたりしてデータを記録する。

（４）　撮影した画像とＧＰＳのデータを使って、ハザードマップを作成する。

（１）講義の様子

（２）移動の様子

（３）撮影の様子

３　成果と今後に向けて

自分たちが住んでいる地域にもかかわらず、災害時に危険な場所を意識して生活していなかった生徒がほとんどで、危険箇所を見つけるたびに、大きな驚きを示した。

「この場所も危険だろう。」など、危険な場所を意欲的に探す姿が印象的だった。地域の災害に関して興味をもったこと、そしてより身近なものとして防災の意識付けができたことは、大きな収穫であった。

今後はＧＰＳカメラで撮影した映像を使って、ハザードマップの作成を行う予定である。完成したハザードマップを利用して避難訓練を行うことで、より実践的な避難を行うことができると考える。また、毎年危険箇所は変わっていくので、危険な場所を把握する意識を高めることを継続することが必要であると考える。

取　組　名	津波対応の避難訓練		
特　　徴	・小学校と合同で同時刻に防災行政無線による避難指示を出す。 ・小学生は集団下校中であり、中学生は放課後の時間帯であることから、部活動中の生徒や下校中の生徒など、様々な行動をとっている。		
学　校　名	光市立室積中学校	期日	平成２６年１２月２日（火）

１　ねらい

（１）　放課後に地震・津波が発生した際の基本行動を理解し、安全に避難することができるようにする（生徒）。

（２）　室積地区内の避難場所を知り、地域住民と協力して避難しようとする意識をもつことができるようにする（生徒）。

（３）　放課後に地震・津波が発生した際、生徒の安全管理および避難誘導、避難完了確認の方法について検証する（教員）。

２　概　要

時刻	活動内容	生徒の動き	教員の動き
想定 ・終学活終了１５分後の１５時４０分に、防災行政無線放送から津波警報発令による避難指示が出される。 ・当日は、校長・教頭ともに出張で、不在とする。 ・部活動へ移動中の生徒、下校中の生徒等、生徒は様々な動きをしている。			
15:40	防災行政無線から避難指示 すぐに校内放送	・部活動中の生徒は、荷物を持って、グラウンドに部活単位で集合する（自転車通学生は、自転車を押して集合。）。 ・下校中の生徒は、各自で光寿園又は千坊台２丁目公園の近い方に避難を開始する（近くに小学生、高齢者がいた場合は付き添う。）。	・職員室にいた教員は、職員室の全校生徒名簿ファイル（緊急連絡用）と全校生徒名票・筆記用具（チェック用）を持ち出す。 ・グラウンドに集合し、避難誘導班と校内最終点検班と光寿苑・千坊台２丁目公園への先発隊に役割分担する。
15:44	人員確認 校内点検	・部ごとに人員確認を行う。	・先発隊は移動する。 ・校内最終点検班は、残留生徒がいないか確認をする。 （報告：教務→教頭→校長）

部活動場所から
グラウンドへ

教務主任・生徒指導主任を中心に役割分担中

役割分担に従い、各場所へ移動開始

15:46	避難開始	・下校中の生徒は、光寿苑・千坊台２丁目公園の近い方に集まり始めている。 ・学校にいた生徒は、先生の引率で光寿苑に避難を始める。 高台の避難所（光寿苑）に避難中 下校中の小学生は先に光寿苑に到着していた	・先発隊は、避難してきた生徒の確認を始め、管理しておく。 ・避難誘導班は、光寿苑まで生徒を誘導する。 ・最終確認班は、残留生徒がいた場合、その生徒を引率して光寿苑に避難する。いない場合は、すみやかに光寿苑に避難する。
16:05	避難完了	・教員に避難完了報告（年組番氏名）をする。	・各避難場所で名簿に避難完了生徒をチェックする。 （報告：各責任者→教務→教頭→校長）
16:10	下校	・各避難場所から下校する。 避難生徒を全校生徒名簿でチェックする。	
16:20	最終安否確認		・本部で光寿苑・千坊台２丁目公園の各避難所のチェック名簿をつきあわせ、不明者の確認をする。 （報告：教務→教頭→校長）

３　成果と今後に向けて

（１）成果

○　ねらい（１）、（２）については、放課後という設定で、部活動中の生徒や下校中の生徒と様々な状況であったが、落ち着いて行動し、ねらいを達成することができた。

○　ねらい（３）については、校長、教頭が不在の設定であったが、教務主任、生徒指導主任を中心に役割分担を行い、生徒の誘導や安否確認をスムーズに行うことができた。

（２）今後に向けて

○　放課後の設定のため、参加できない生徒（通院、社会体育、家庭の事情等）を事前に把握していたので避難生徒を含め不明者はいなかったが、放課後や休日の災害時に、全校生徒の安否をどのように確認するのか検討が必要。

○　管理職不在の設定のため、携帯電話で連絡を取りあったが、携帯電話が不通の場合の連絡方法の確保が必要。

○　全校生徒名簿ファイル、各教員用のチェック名簿は持ち出されたが、筆記用具の無い教員がいた。筆記用具も含め、非常持ち出し一式としてそろえておくことが必要。

その他「もしもの時は」と考えた場合、様々な不都合な点が反省として上がってきた。また、誰もが主として指示が出せるよう、日常から危機意識を高めておくことが必要。

取　組　名	土曜授業「地域の防災を考える」～講義とグループ討論を通して～		
特　　徴	毎月１回程度の土曜授業の一環として、大学や行政、地域の方たちとともに、５年前の「中国・北九州豪雨」によって小野地域が被った土砂災害の体験をもとに、専門家による防災教室やグループ討論を進めていく。		
学　校　名	防府市立小野中学校	期日	平成２６年７月５日（土）

１　ねらい

５年前の平成２１年７月に校区内で起きた集中豪雨による土砂災害を思い出しながら、小野地域が土砂災害に遭いやすいことや、自分たちの命やふるさとを災害から守るための対策や行動の仕方について認識を深めていく。

２　概　要

（１）活動の流れ

時間	活　動　内　容
8:35 9:35	①防災教室 ◆演題「土砂災害の恐ろしさ」 ◆講師　山口大学大学院理工学研究科 准教授　鈴木素之先生
9:45 11:30	②グループ討論 ◆テーマ 「災害に負けない小野地域にするためには」 ◆コメンテーター（４名） ・山口大学准教授　・自治会連合会長 ・防府市防災管理課職員２名 ◆グループ編成（１２班） 在住地区ごとに中学生や教員、保護者、地域住民の混合編成

写真Ａ

写真Ｂ

写真Ｃ

（２）活動の様子

防災教室では、５年前の土砂災害を研究されている鈴木先生から、実際の土砂災害の動画や雨量グラフなどの映像を通して土砂災害のメカニズムやその恐ろしさを具体的に学んだ（写真Ａ）。

グループ討論で、コメンテーターが当時消防署員として出動したときの土石流の体験談は、生徒や保護者たちに強烈な印象を与えた（写真Ｂ）。

その後の各グループの討論では、ハザードマップ等の資料を参考にしながら、保護者や地域の方たちも加わって、災害が発生した場合にとるべき行動や未然に災害から守るための対策について活発に討論し、大判用紙にまとめることができた（写真Ｃ）。

下表は、各グループでまとめた対策を一部抜粋したものである。

ハード面	＊堤防を高くする。　＊植林を進める。 ＊２階建ての避難所や避難道路をつくる。 ＊谷川を分けて土石流の力を分散させる。 ＊防災スピーカーを増やす。 ＊非常食を入れる倉庫を各地区に設ける。	ソフト面	＊各家庭で自ら防災グッズを備える。 ＊ハザードマップで危険箇所や避難経路を決めておく。 ＊近所どうしの関わりを深める。 ＊地域をあげて防災訓練を行う。 ＊小野地域の災害対策の組織をつくる。

３　成果と今後に向けて

身近な災害を題材にした防災教室からグループ討論への流れが功を奏し、生徒のみならず大学や行政等、様々な立場の方々も含めて意見交換を活発に行うことができ、地域の防災意識の向上にもつながった。

ただ、地域の自主防災訓練への生徒たちの参加が今後の課題となった。そのために地元の関係団体や市の関係機関等との連携を、より一層図っていくこととなった。

取　組　名	中学生が参加した地域の防災訓練		
特　　徴	本年度、コミュニティ・スクールの活動に取り入れた。自分たちが住む地域の防災訓練に参加し、防災の大切さを実感できる活動である。		
学　校　名	宇部市立黒石中学校	期日	平成２６年８月３１日（日）

１　ねらい

自分たちの地域の防災訓練に参加し、自分の命を自分で守る意識を育むきっかけとする。

２　概　要

（１）８月２１日（木）

登校日を利用して、全校生徒に自分の身は自分で守る大切さを感じ取らせるために、厚南市民センター　藤兼　憲一　様、原市民センター　小樋　倫子　様を講師に迎え、東北大震災の災害ボランティアとして活動した体験を基に講演をしていただいた。

講演の際に提示された画像など生徒は興味深く、聞き入っていた。

（２）８月３１日（日）

８時に自分の住む自治会からの連絡を受けたと想定し、各自治会で決められた避難場所に徒歩で避難する。

１０時にふれあいセンターに集合し、各自治会のワークショップに参加する。

３　成果と今後に向けて

自分の生命を最優先にすることを生徒全員が確認できた。また、地震や津波等を想定して、実際に地域の方と避難経路を通り、危険箇所を見つけ、学校だけでは学ぶことが難しい、地域と一体となった防災学習ができた。

今後は、より一層、生徒一人ひとりが地域の一員としての自覚を身に付け、要支援者救出等、防災・減災意識をさらに高めていきたい。

取　組　名	ブラインド方式で行う避難訓練と安全指導		
特　　徴	決められた避難行動の訓練をより実践に即した形にし、その場での判断や臨機応変の行動が要求されるよう設定した。		
学　校　名	美祢市立美東中学校	期日	平成２６年７月２日（水）

１　ねらい

○　学校生活において、火災・地震等の緊急事態に際し、的確に状況を判断し、安全で迅速な避難行動が主体的に取れるよう訓練する。

○　災害についての基本的な知識を身に付け、防火・防災に対する意識の高揚と実践力の向上を図る。

２　概要

（１）事前指導

基本的な対応行動。避難経路の確認。避難時の留意事項。人員点呼。地震発生時刻は伝えない。

（２）地震発生（昼休みの時間終了前）

緊急地震速報と地震の効果音を放送で流し、教員による指示は行わず、生徒各自で対応行動をとらせる（写真）。

落ちてこない・倒れない・移動してこない場所で頭を守る。

（３）避難行動

停電のため放送機器の使用不可の設定。ハンドマイクと大声で避難指示を出す。

事前に指導した既定の避難経路に通行不可箇所を２か所設定。

昼休みなので教員の誘導はなく、各自で安全と思われる経路を選択して避難する。

（４）人員点呼

けが人の設定。生徒２名を教室内に残した状態にしておく（足の骨折とショック状態）。

正確に人員点呼ができているかどうかの確認。

打ち合わせなしで、その場で教頭からの指示による救助活動を行う（教員）。

（５）教員による救助活動

二人組で捜索箇所をすばやく指示し、校舎内の捜索を行う。

骨折生徒は生徒用イスにのせて搬出。ショック状態の生徒は背負って搬出。

骨折の応急処置を、養護教諭が全生徒の前で行う。

（６）「地震と津波」のメカニズムの全体指導

「自然災害から自分の命を守るために」の内容を中心にプレゼンの自作資料を使って全校指導をする（写真）。

（７）ＫＹＴ資料を使っての学級指導（写真）

地震・津波に関する４枚の資料を提供し、担任の裁量でそのうちの１枚を使って、危険予測学習を実施する。

３　成果と今後に向けて

○　学校評価で、「先生は、安全な学校生活が送れるよう配慮や指導をしてくれる。」の項目に９５％の生徒が肯定的な評価をしている。緊急事態の際、どのように行動しなければならないかということがある程度定着していると考えられる。

○　生徒の態度や事後の反省文等を見ると、ブラインド方式で実施することで、かなり緊張感をもって訓練に臨めていたことが伺える。

○　今後は、基本的な避難訓練と、より実践的な避難訓練のバランスを考えて実施していきたい。

○　小学校との連携による避難訓練や二次避難の訓練等も工夫しながら取り入れていきたい。

取　組　名	よしみ地区合同地震津波対応避難訓練		
特　　徴	よしみ地区の幼保小中学校と水産大学校、海上自衛隊、消防署、消防分団と地域住民が一体となって行う地震・津波対応避難訓練		
学　校　名	下関市立吉見中学校	期日	平成２６年１１月１８日（火）

１　ねらい

○　誰もが地震・津波に遭遇する可能性があることから、危機意識を高め、生命・身体の安全維持のために適切な行動ができるようにする。

○　地域ぐるみで訓練することにより、海抜の低い地域の住民と一体となって防災意識を高める。

○　高学年児童や中学生は、自らの命だけでなく、地域の一員として地域を守るという自覚を高める。

２　概　要

○　参加者（合計７９０名）

（１）園児･児童･生徒・学校関係

①　吉見保育園　②　二葉保育園　③　日の出幼稚園　④　吉見小学校
⑤　吉母小学校　⑥　吉見中学校　⑦　よしみ子ども見守り隊

（２）地域関係

①　吉見自治連合会　②　吉見支所　③　吉見敬老会　④　吉見婦人会
⑤　吉見消防分団　⑥　水産大学校

（３）公的機関（訓練支援）

①　下関市警察署　②　吉見駐在所　③　下関市消防署
④　下関北消防署　⑤　海上自衛隊下関基地隊　⑥　下関市役所

○　避難場所と避難対象

（１）近隣公園：園児･児童･生徒、地域の方
（２）水産大学校多目的学生教育棟：永田本町４、５，６、７区住民
（３）西光寺境内：吉母地区
（４）足の不自由な近隣高齢者：吉見中表門付近集合

○　共通訓練手順

（１）地震発生仮定時刻　13:35
（２）津波発生仮定時刻　13:45
（３）避難完了後全体集会　反省・講話
（４）解散

○　避難場所別訓練手順

（１）近隣公園避難（園・学校・地域関係）

①　地震発生 →安全の確保（一次避難）→園・学校内避難（二次避難）
13:35　13:37
→津波警報(消防車サイレン)　→高所への避難（三次避難）
13:45　14:00

②　避難場所　運動場　→　近隣公園（グラウンド）

③　全体集会
北消防署長講話　自衛隊講話　中学校長あいさつ

（２）水産大学校多目的学生教育棟に避難

①　同時刻に行う。

②　具体的な手順は昨年同様、水産大学校と永田町自治会との協議により決定。

③　足の不自由な近隣高齢者は中学校に集合し、その後、自衛隊車両に乗って避難。

（３）西光寺境内に避難（吉母地区）

①　同時刻に行う。

②　具体的な手順は、吉母小学校を中心に吉母地域で決定。

３　成果と今後に向けて

今年で３年目を迎える地域を巻き込んだ本避難訓練は、地域の中でもかなり定着してきており、地域住民あわせて約７９０名が参加して行われた。海抜２ｍの高さに位置する吉見中学校の生徒にとって、「命の教育」の一環であるだけでなく、地域を支える一員としての自覚を育てる機会として継続する必要がある。

今後、地域すべての住民の参加を促していきたいが、地域の中でも地震津波に対する意識に差があるのが現実である。それぞれの地域住民と中学生が、これまで以上により一体となり、より安心安全な町作りに向けて何ができるか考えていくことが肝要である。

さらに、この訓練には教育的側面と実効的側面があるが、今後の課題としては、これまでは中学校の教師主導で行ってきたこの訓練を、企画運営に生徒会を参加させ、この訓練の在り方を地域住民とともに生徒自身で考えることが重要である。

さらに、より実効性のある訓練にするには、実際の災害の場合に誰が誰を助けるかという地域内の相互扶助体制や、自衛隊、消防の緊急支援体制を整備する必要がある。

この訓練を通して、将来本校卒業生が不測の事態に直面した際に、主体的に自他の命を守ろうとする存在になることを念じてやまない。

取　組　名	川下中学校区内　安全マップづくり大作戦		
特　　徴	地域協育ネットの一環として教職員・児童生徒・保護者・地域の方々と共に安全マップの作成を行った。		
学　校　名	岩国市立川下中学校	期日	平成２６年８月２０日（水）

１　ねらい

小学校、中学校、育友会（保護者）、地域との連携を図り、地域ぐるみで各地区の安全調査・危険箇所調査を行う。実際の調査結果を記載した安全マップを作成する。

２　概　要

【　開会式の様子　】

【　活動の様子①　】

【　活動の様子②　】

地域協育ネットの一環として、教職員・児童生徒・保護者・地域の方々と共に、校区内安全マップの作成を行った。

午前９時に各出身小学校に集合し、小学生、中学生、保護者の方々及び担当教員により開会式を行った。式後、班ごとに各地区の地域の方との合流地点に向けて出発(地域の方との合流地点については、あらかじめ文書によってお知らせ済み)。地域の方と合流し、時間の許す限り危険箇所調査を行った。

同時に、１１月１９日(水)に行われる「校区内クリーン大作戦」の清掃希望箇所についても地域の方から希望調査を行った。調査終了後、各班の調査資料をもとに、担当教員が川下中学校区内の安全マップ作成を行った。作成した安全マップについては代表生徒による確認の後、学校内に掲示した。また、小学校にも完成した安全マップを送付した。

中学生たちは小学生の引率や調査のリーダーとして、責任感をもって主体的に活動に取り組むことができていた。また、日頃あまり接することのない保護者や地域の方々と接することができたことから、地域協育ネットとしての役割を十分に果たせていたように感じる。短い時間の活動ではあったが、自己肯定感の確立や、人と接し協力することの大切さも学ぶことができ、キャリア教育としての視点からも意義があったように感じる。

課題としては、各小学校から活動地点までの距離が遠い地区では、往復するだけで約９０分かかってしまったために、現地での調査にあてる時間が十分に確保できなかったという点である。また、ある地区では、生徒たちの班と現地で合流予定の地域の方がスムーズに合流できなかったということがあり、参加してくださった地域の方に御迷惑をおかけしてしまった。

３　成果と今後に向けて

生徒たちの安全に対する関心や意識を高めることができた。自分たちの通学路や日頃生活しているエリアにどのような危険が潜んでいるか、あるいはどれだけ多くの危険箇所が存在しているのかを、自らの足で調査することで再確認する機会になった。また、完成した安全マップを学校内に掲示することによって、実際には危険箇所調査に参加することができなかった生徒も、マップを見て再確認するといった様子も多く見ることができた。

今後はより一層の安全対策や、保護者・地域の方々も参加していただけるような生徒主体の活動を増やしていきたい。また、いろいろな活動を企画することによって、地域と生徒たちとの交流の場を増やし、「開かれた学校」に近づいていければと感じる。

取　組　名	和木町幼小中合同避難訓練		
特　　徴	幼小中が連携して合同で避難訓練を行う		
学　校　名	和木町立和木幼稚園 和木小・中学校	期日	平成２６年６月２７日（金）

１　ねらい

（１）　幼小中が合同で避難訓練を行い、災害発生時には、相互に連絡を取り合いながら協力して避難することができるようにする。

（２）　地域の避難場所を知ることで、学校管理外の場面においても、自分の命や他の命を守ること行動をとることができるようにする。

（３）　参加者の意見を集め、課題点を明らかにする。

２　概　要

10：44　緊急地震速報（教育委員会から各学校へ連絡）

第一次避難、屋上へ（中学生は幼稚園児を迎えに行く。）

10：46　第二次避難、高台への避難連絡（教育委員会から各学校へ連絡）

10：46　校内放送により児童生徒避難

和木小学校（八幡山公園へ）

和木幼稚園・和木中学校（山の手町営住宅山道）

（海抜２０ｍの立札が目印）

11：10　安全を確認しながら下山し、学校に戻る。

※　消防隊員による指導講評

11：45　防災給食（乾パン、豚汁、冷凍ミカン、牛乳）

幼稚園（非常食カレー、冷凍ミカン、牛乳）

中学校（乾パン、豚汁、冷凍ミカン、おむすび、牛乳）

３　成果と今後に向けて

（１）成果

３年目の合同避難訓練は、第一次避難と第二次避難を設定することで、実際に災害が起きたときの、より詳しい避難経路を確認することができた。

また、中学３年生が幼稚園年長の園児と手をつないで避難したり、小学校６年生は１年生と避難したりすることで、和木町が進めている幼小中連携の大きな柱である「心の教育」の推進にも繋がる訓練となった。

（２）今後に向けて

災害後、園児・児童生徒を保護者に引き渡すのか、別々に避難させるのか等、保護者との連携も視野に入れて、次回の訓練に向けて計画案を練り直す。